

各学科からのアプローチ 崇城の探究心

《スマートフォン》にアプローチする3学科

スマートフォンをもっと進化させたい

今や情報通信手段の主流はパソコンからスマートフォンに移りつつある。

IoT時代の到来で、さらにその存在感を増すことは必至だ。

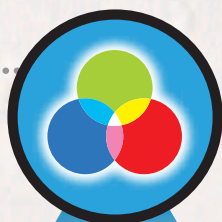
より小さく、速く、安全に、使いやすく。

情報技術が加速度的に進化する中で、崇城大では一歩先んじた見方でスマートフォンの進化を支える研究が、様々な視点から行われている。

ナノサイエンス学科

有機EL画面の低コスト化に挑戦

超薄型、軽量、省エネで、色の再現性も高く、スマホの次世代画面として注目されている有機ELデバイス。「バイポーラ性分子」という様々な機能を含む有機分子を活用した新技術で、より安く、より薄く生産できる開発を進めています。



スマート
フォン



情報学科

スマホを守る暗号とアプリの研究

小型情報処理端末であるスマホに含まれる個人情報は莫大で、情報流出の危険にさらされています。そこでスマホにも使える新しい暗号化技術や、SNSの不適切な書き込みの自動判別システム設計など、情報セキュリティの研究に励んでいます。



デザイン学科

「使い手」を想うプロダクトデザインを

スマホの形は画面が優先され、持ちにくく割れやすいものがほとんど。高齢者やデジタルに興味がない人にとって不親切な形です。そこで、使う人の多様性に合わせ、「人」のことを中心に考えるスマホのプロダクトデザインを研究しています。

情報学科

菊川さん 2019年卒 熊本県 鹿本高校出身
※現大学院博士前期課程1年生

より高速で軽量な処理の
スマホアプリ開発が目標です

高校の頃から、独学でスマホのアプリ開発をしていました。大学入学後は、県警と共同でSNSの不適切な書き込みを見つけた「サイバーボランティア」に参加し、そのアプリを開発。もっと処理を効率的に行うために、アプリ内の作業の「並列化」という手法を研究しました。より速く、簡単に使えるスマホアプリに進化させるのが目標です。